

授業の考察⑥<小学校>「友達のトラブルを解決する方法を練習しよう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、小学校6時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|----------------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったか |

なお、考察のために抽出した児童の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

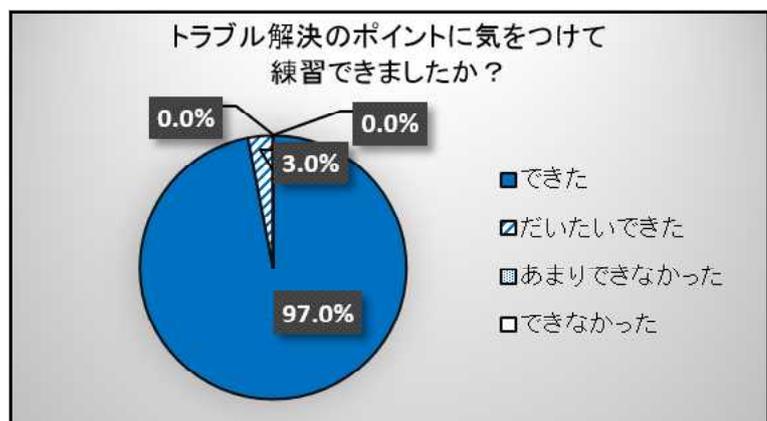
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- | |
|--|
| ・振り返りシートの質問項目「トラブル解決のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること |
|--|

1 トラブル解決のポイントを意識した練習について

○振り返りシートの「トラブル解決のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は100%で、全ての児童がトラブル解決のポイントを意識しながら意欲的に取り組むことができました（資料1）。



資料1 トラブル解決のポイントを意識した練習についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○2種類のトラブルの場面のシナリオのうち1つをグループで選んで、役割を交代しながら練習しました。1つの役を終える毎に、見守る役が間に入る役にできていたところを伝えることで、トラブル解決のポイントを意識しながら練習することができました。活動をメインにしたため、トラブル解決のポイントや間に入る役の重要性について理解を深めることができたと考えます(資料2、3)。

1. 私たちの班でえらんだ場面は(1)です。

2. Cさん(間に入る役)をして、できたところに○をつけましょう。

トラブル解決のポイント	
①2人の真ん中に立つ	○
②トラブルを解決するために、間に入ってよいか 2人にOKをもらう	○
③相手の話をさいごまで大きく確認する	○
④2人の言い分を確認しながら交互にきく	○
⑤自分の考えや意見を出さない	○

声の大きさ外側と内側
 横にいる人のちを見て言っていた

資料2 トラブル解決のポイントを意識した練習についての児童の記述(ワークシートより)

トラブルの真ん中に入って見るとトラブルを解決させるのは大切なことだと分かりました。

今日もトラブルにならないようにするための練習をして、ふりをついたり、相手を見たりしてたくさん工夫していた所が良かったです。

トラブル解決のポイントが前よりも深く分かりました。

資料3 トラブル解決のポイントを意識した練習についての児童の感想(振り返りシートより)

○前回の授業で学習したトラブル解決のポイントを、新たなトラブルの場面のシナリオを使って練習することで、改めて間に入る役の気持ちを感じることができたと考えます(資料4)。

Cさん役をやっている時ほんとうにトラブルを解決しているようでドキドキしました。

今日の練習もしていてもやはりいくら練習でもとてもドキドキして
いました。でも本当にもめている時だったらもっとドキドキしていた
と思います。

資料4 トラブル解決のポイントを意識した練習についての児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、児童は友達のトラブルを解決する方法についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

Ⅱ 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

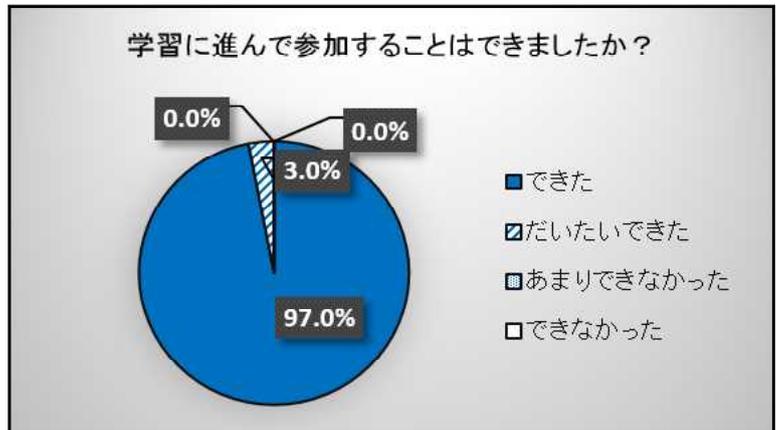
活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安

<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

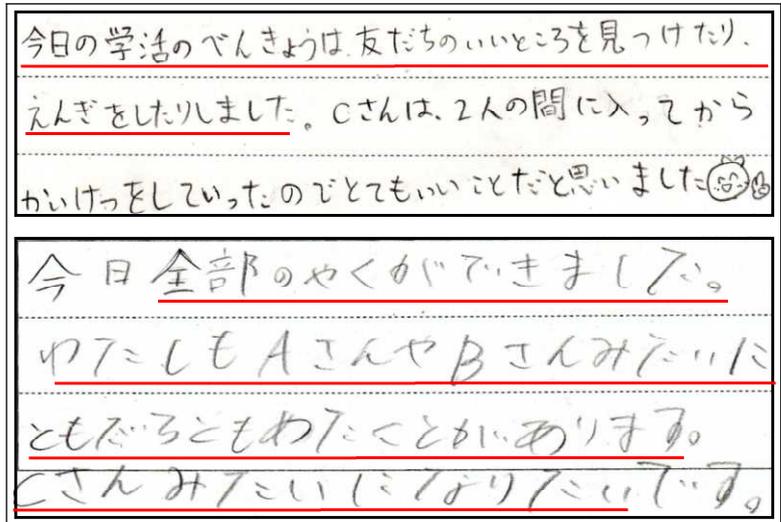
1 学習に進んで参加することができたかについて

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は100%で、全ての児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料5）。



資料5 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

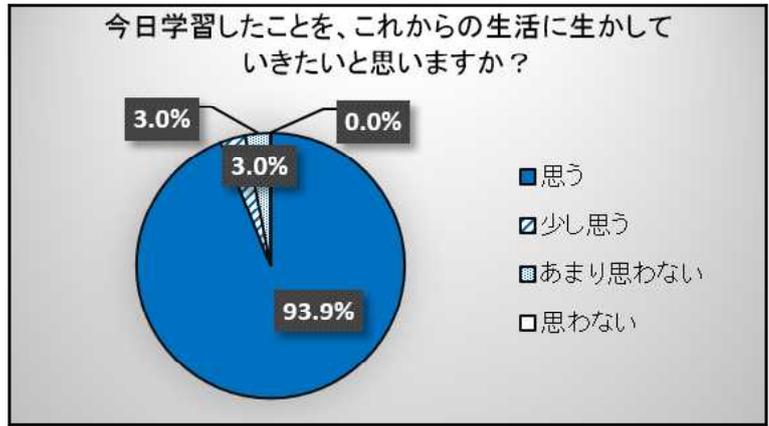
○グループ内で役割を交代して体験したことで、友達の良いところを見付けたり自分の経験に照らし合わせて考えたりすることができたと考えます(資料6)。



資料6 学習への参加状況についての児童の感想(振り返りシートより)

2 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した児童の合計は96.9%で、ほとんどの児童が今日学習したことを生かしていきたいと思っていることが分かりました（資料7）。



資料7 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○友達のトラブルを解決する方法の練習を通して、身近にトラブルが多くあることを児童が客観的に捉え、今後、学習したことを生かしていきたいと感じていることが分かりました。また、トラブル解決のポイントを使うと、周りの人と気持ちよく関わることができることを実感として捉えることができたと考えます(資料8)。

みんながすかると気持ちになれる
 これからの生活でもCさんみたいな人がいると気持ちよくすっきり解決ができると思うからです。
 本当にけんかがおきたときに、先生にたよらず自分たちで、かいつつあつことかできるからです。
 今日の学習でやったことはこれからたくさんあると思つし今日きちんと解決できたから。

資料8 学習内容の今後の活用についての児童の感想(振り返りシートより)

◇これからの生活に生かしていきたいという感想が多かった反面、現実場面で実行できるのかという不安を感じたり、もめている間に第三者が入ってくることに抵抗を感じたりした児童も見られました。これまで、そのような体験をしたことが少なかったり、第三者が入ることで事態が悪くなったりした経験をしたことがある児童にとっては、自然な反応であると考えます（資料9）。

なんかかいつつのしかたがうんからめせんてしてようにかんじたから。
 あまりいていないにありこもど、かえっておこってしまうんだと思ひました。
 私は初めてCさん役をして、本当にけんかがおきたときに、間に入、てかいつつさせてあけることができるのかなと少し心の中で思ひました。

このことを踏まえ、6時目の学習の冒頭で、トラブル解決のポイントを学習する意義をpushするよう展開案を修正しました。

資料9 学習内容の今後の活用についての児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、児童が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、活動プログラムのまとめとして適切な内容であったことが分かりました。